

## 平成26年度第5回高崎市子ども・子育て会議 会議録概要

- 日 時 : 平成27年1月29日(木) 午後2時00分～午後2時45分
- 場 所 : 高崎市役所 本庁舎4階 庁議室
- 出席者 : 別紙のとおり
- 傍聴者 : 2人
- 会議に付した案件
  - ・ 高崎市子ども・子育て支援事業計画(案)に関するパブリックコメントの実施について
- 配付資料 ・ 次第
  - 事前送付資料
    - ・ 資料1 事業計画のパブコメについて
    - ・ 資料2 子ども・子育て支援事業計画(案)
- 会議録 : 別紙のとおり

○ 出席者（委員）：１７名

| 番号 | 所属団体等                             | 氏名     | 当日<br>出欠 |
|----|-----------------------------------|--------|----------|
| １  | 高崎市医師会                            | 新井 英夫  |          |
| ２  | 高崎市区長会 副会長                        | 飯野 茂   |          |
| ３  | 公募市民                              | 小澤 健一  |          |
| ４  | 高崎市保育協議会 会長                       | 狩野 章   |          |
| ５  | 公募市民                              | 後閑 紀子  |          |
| ６  | 日本労働組合総連合会群馬県連合会<br>高崎地域協議会 事務局次長 | 越澤 恭行  | 欠席       |
| ７  | 元教育委員長、あすなろ学童クラブ代表                | 小見 勝栄  |          |
| ８  | 高崎市ＰＴＡ連合会 常任理事                    | 小峯 希子  |          |
| ９  | 高崎市学童保育連絡協議会 会長                   | 鈴木 宏輝  |          |
| １０ | 高崎市民生委員児童員協議会<br>主任児童委員連絡会会長      | 高橋 鈴子  |          |
| １１ | 高崎健康福祉大学 教授                       | 千葉 千恵美 |          |
| １２ | 高崎市私立幼稚園父母の会連合会 会長                | 土岐 輝美  |          |
| １３ | 高崎市小学校長会 城南小学校長                   | 永井 典代  | 欠席       |
| １４ | 高崎市心身障害者等連絡協議会 会長                 | 中澤 登   |          |
| １５ | 高崎市保育協議会保護者会 会長                   | 長澤 尚胤  |          |
| １６ | 高崎市私立幼稚園協会 副会長                    | 蜂須賀 和夫 |          |
| １７ | 高崎市母子等保健推進協議会 副会長                 | 樋口 啓子  |          |
| １８ | 高崎市社会福祉協議会 会長                     | 松橋 亮   |          |
| １９ | 高崎市児童文化スポーツ連合会 理事長                | 吉井 良弘  |          |
| ２０ | 認定こども園の代表者                        | 和田 辨孝  | 欠席       |

○ 出席者（事務局職員）：２０名

## ○ 会議録

|                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 開会<br/>(事務局)</p>     | <p>定刻となりましたので、ただいまから平成26年度第5回高崎市こども・子育て会議を開会させていただきます。</p> <p>会議の開会に先立ちまして、出席予定が18人、欠席2人となっております、あと1人お見えではないですけれども、高崎市子ども・子育て会議条例第6条第2項の開催要件を満たすことをご報告いたします。</p> <p>また、会議の公開等につきましてはこれまでどおりあらかじめ許可してあります。それでは、お手元の次第に基づきまして進めさせていただきます。</p>                                                                                                                                                                                                                            |
| <p>2. 会長あいさつ<br/>(事務局)</p> | <p>はじめに、次第2「会長あいさつ」でございます。会長からごあいさつを頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>(会長あいさつ)</p> <p>それでは議事に入りたいと思います。</p> <p>議事の進行は、高崎市子ども・子育て会議条例第6条第1項により、会長が議長となることになっておりますので、ここからは会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>(会長)</p>                | <p>これより議事の進行を務めさせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>議事の協議に入る前にこれまでと同様に私から会議録の署名人1人の指名をさせていただきます。当会議の会議録署名人として委員Aを指名したいと思います。委員Aは、当会議の会議録が完成しましたら、ご署名をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>3. 議事1<br/>(会長)</p>     | <p>それでは議事に入ります。</p> <p>議事「高崎市子ども・子育て支援事業計画（案）に関するパブリックコメントの実施について」を議題といたします。</p> <p>子ども・子育て支援事業計画（案）につきましては、前回12月の会議におきまして事務局から案が示され、委員の皆様からご意見をいただいたところでございますが、その後、事務局がいただいたご意見などを参考に一部を修正して、これからパブリックコメントを実施することになっているとのごことでございます。前回の会議から修正をした内容と、パブリックコメントの実施概要について事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>(高崎市子ども・子育て支援事業計画案及び計画策定にあたり今後予定されているパブリックコメント等の日程について、事務局から説明を行った。)</p> <p>事務局からの説明は終わりました。</p> <p>事業計画については今回お示しした案でパブリックコメントに付すとのことでございますが、委員の皆様からご意見などはございませんか。</p> |
| <p>(委員B)</p>               | <p>第5章の1「法に基づく量の見込み及び確保方策の主旨」のうち、教育・保育提供区域は、本市全域を1区域とする旨の記載があります。本来この法律の趣旨からすると、1つの自治体である市町村をいくつかの区域に分けて、その中できちんと需要と供給を</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>精査しながら施設を整備するということになっていると思います。まして高崎市の場合は中核市ということで、20から30数万の人口を有しているところなので、なおかつ県境で言いますと、長野から埼玉までの広域の市になっている関係で、この1区域と考えることの整合性というものを少し教えていただければと思います。特に今人口が増えている地域もありますし、減っている地域もありますので、1区域というふうに考えると、人口が増えて幼児が増えているところの整備になかなか結びつかないのではないかなと思うのですが、その辺はどういうふうにお考えでしょうか。お願いいたします。</p>                                                                                                                                                             |
| (事務局) | <p>お答えをさせていただきます。全市を1区域にしたという理由でございますが、まず、例えばいくつか区域に分けた時に、利用者が必ずしもその区域で利用しているとは限らないという状況がかなりあります。そういったしますと、1つにすることによって区域の重なるの整合をうまくとっていくことが可能なのではないかなというふうに考えているところであります。また委員さんの方からお話もありましたが、高崎市は非常に広大な区域で、例えば新町の保育所に入りたい、あるいは幼稚園に入りたいという方が入れなくて、市として倉渕が空いているから倉渕に入所してくださいというふうに、これだけ見ると捉えられる可能性もあるのですが、高崎市としましては、一定の範囲の地域で、そういった入りにくい状況があれば当然必要に応じて整備をしていかなければいけないと考えておりますので、柔軟性を持たせるために1つの区域と設定をさせていただいているというふうに考えているところでございます。よろしくをお願いいたします。</p> |
| (委員B) | <p>ただこういうふうに事業計画(案)に書いていただいたときに、今事務局からお話があったような運用をしていただければありがたいのですが、文書で残らないので、将来的に、計画書に書かれているのだから、全市一体で空いているのだからといわれなかと少し危惧として残るのですが。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| (事務局) | <p>お答えさせていただきます。計画(案)でも「量の見込みの設定に関しては、計画策定時の見込みであり、実際の入所状況や社会的動向等を踏まえ、適宜修正を行うものとします。」と記載させていただいておりますが、そういった事例をよく見ながら、対応してまいりたいと考えております。よろしくをお願いいたします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| (委員C) | <p>よろしいでしょうか。計画(案)に記載のある「障害を持つ子どもへの支援体制の充実」というところで、内容を見ると、すごくサポート体制が充実されるのかなというふうに思われるのですが、それでも、「療育の必要性がある」記載が少ないと感じています。今、こども発達支援センターが始まって、ここに事業として載せていただいているのはペアレントトレーニングなどの応援や相談ということが多いように思われるのですが、実際に子どもさんに対しての支援というのでしょうか、療育はどのような形でされているのかということが1点と、乳児も含め幼児も、初期段階にグレーゾーンの子どもさんがいらっしゃると思うのです。初期状態の時に心理療法であれ、いろいろな療法を取り入れたら、もっと開けてお母さん方も実際見られない自分の子どもたちの変化というものを見られるのではないかなというふうに思われるのではないかと。その辺をど</p>                                         |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(事務局)</p> | <p>のように療育をお考えになっているのかをお聞きしたいと思います。</p> <p>この療育に関しましては、市の直営で療育機関を持っているということではないので、なかなか十分療育ということが出来ているかということがあると思います。ただ母子保健推進委員さんが深く関わる健康課の保健センターの事業の中で、健診事業をやっておりますけれども、そういった中で言葉の遅れや手先が不器用だとか、大きな運動が苦手だとか、いろいろな面で保健センターの経過観察の後にこども発達支援センターの方へ紹介があつてということで、うちのスタッフの心理士への相談、言語聴覚士、作業療法士もおりますので、個別相談を行いながら経過を見ております。ただ、冒頭で申し上げましたように、療育機関ではないことから、センターとしてその訓練をつんでいくということではないので、相談機関というスタンスでやっております。頻回な訓練等を必要とする方には療育機関の方に紹介をしていくというようなかたちで、徐々に繋ぎをさせていただいて、またただ繋いで渡してしまうだけではなくて、必要に応じてセンターも相談を受けながら、就園や就学にうまく支援が継続できるようなかたちで支援させていただいております。なかなか療育というところが、私たちもセンター業務をしながらも療育についてはもっともっと十分に機能していける社会になってほしいと感じております。そういったところなのですが、センターとしてもメインは相談業務ですが、相談を受けた方に対して、判断能力のないお子さんですから、メインはやはり保護者支援ということになりますので、保護者への日頃の生活の中での支援の仕方、お子さんとの接し方、また小集団で「かるがもくらぶ」といった療育支援のお教室も年間を通してやっておりますけれども、そういったことを通して、幼稚園や保育園等に繋がられるようなかたちで支援させていただいております。</p> <p>また、お母様の行動が変わっていくことで、お子さんの対応が楽になったり、発達が促されたりということもありますので、「ペアレントトレーニング」、集団方式、個別方式ということで関わらせていただいております。現状はそのようなところなのですが、なかなか発達障害があるということに対しても、診断をつけられる医療機関や関係機関もどこまであるかという問題も1つあるかと思ひますし、その診断をする時期や診断をすることが有効かということもありますので。確かにグレーゾーンの方はたくさんいらっしゃいます。ですけれども、診断をつけることが目的ではなくて、家庭生活や集団生活の中で困っていることについて、私たちは支援が出来るような形で応援させていただいているようなことが状況です。委員さんがご心配されているとおり、グレーゾーンの方もたくさんいらっしゃるの、私たちも今後一生懸命頑張っていかなければいけないというふうに考えているところでございます。ありがとうございます。</p> <p>(委員C)</p> <p>「ほっぷ」では、子どもさんと一緒に何かをするという体験をさせていただけるようなかたちをとっているのでしょうか。</p> <p>(事務局)</p> <p>「ほっぷ」は集団療育というようなかたちをとっていただいているのですけれども、こども発達支援センターからの紹介ということで今受けていただいております。こども発達支援センターに繋がってくる前がやはり保健センターの3歳児健診の後に「まめの</p> |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>木学級」という小集団を経てこども発達支援センターの相談を受けて、すぐ「ほっぷ」にいたり、支援センターの「かるがも教室」を受けたりというところの選択をさせていただきながら、「ほっぷ」とは本当に連携を強く持って支援をさせていただいているところです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| (委員C) | <p>「ほっぷ」も市の、行政の運営ではないということですか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| (事務局) | <p>そうです。「ほっぷ」は総合福祉センターに指定管理で業務をお願いしています。その事業の中で「ほっぷ」という事業をしていただいております。ただ、今の現状としますと、こども発達支援センターに関わったお子さんの紹介ということで受けていただいているのですね。そのようなところで、よろしくお願いいたします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| (委員C) | <p>要望として、できるだけ市の対応で、子どもさんに対するサポートもしていただければありがたいなと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| (事務局) | <p>はい。発達障害に特化した児童デイをやっているところもあるのですが、そういったところとも綿密に連携をとりながら、そのお子さんがどこで支援していくのがいいことかということを総合的に考えまして、支援させていただいております。よろしくお願いいたします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| (委員D) | <p>今のことについてちょっとご相談ですが、高崎健康福祉大学に子ども・家族支援センターというのがあって、その中で発達の遅れている子どものスクリーニングをしていて、児童発達支援センターに繋がったことがあります。それがすごくうまくいまして、ご紹介いただいた幼稚園に現在通われていて、自閉症スペクトラムですが、親もそれをよく理解しながら、丁寧な関わりによってかなり改善しました。ということも含めて、やはり地域の連携体制とどのように子どもをみながら、やはり市と一緒に関わっていくかという組織作りがまず必要に思います。これが1点。</p> <p>もう1つは児童相談所とどのように関わっているのか、その辺のお話が聞きたいと思います。というのは、障害を持つ子どもが非常に虐待にあうケースが多いのですね。そうするとそれにあわせた児相との兼ね合い、そういったものの早期発見というのも非常に大切だと思います。その辺のところをお聞かせください。</p> |
| (事務局) | <p>こども発達支援センターでは、児童虐待の関係で児童相談所とこども家庭課との連携をしております。もともとはこども発達支援センターに相談に来ている方の中にも、ちょっと虐待が疑われるとか、そのような通告しなくてはならない事例の場合には、児童相談所に通告しますし、予防ということで、お母さんの対応が変わっていくことで虐待が防げるといった場合には、「ペアレントトレーニング」などを積極的に進めて、それを受けたことで大変改善しているケースもたくさんございます。</p> <p>また虐待となるとこども家庭課の方へ相談が寄せられますので、そのお子さんの虐待に対して、子どもに特性があつて虐待に及んでいるのではないかというようなところも</p>                                                                                                     |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>含めると、こども家庭課からこども発達支援センターに繋いだりということもたくさんありますので、児童相談所という機関と市のこども家庭課、こども発達支援センター、それから健康課ですね、それまでの乳幼児の関わりの多い健康課の保健師等との関わりの中で、連携を組んでいくということも大切にしております。キャッチしたところで終わりにするのではなくて、できるだけ綿密に連携をとり、丁寧な対応というところを心掛けてるところです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| (委員E) | <p>参考までになのですが、先程、気になる子のお話が出まして、現場からいたしますと、全園に一昨年アンケートをとりまして、園児のうちの約6%、全国平均が7%なのですが、全園児のうち障害と思われる、気になる子ですね、親は了解していない人も含めてです。これは幼稚園も保育園も同じだと思います。その中で先程発達支援センターの方からも話があったとおり、保育士もコーディネーター研修というものをやらせていただいて、連携をとりながら集団の中でどういうふうな声がけをしたらいいかという具体的な研修も受けています。それも集団の中での療育のひとつかなと思うのですが、ただ就学時健診まで親が納得しない場合の障害が一番問題でありまして、発達支援センターの方から、例えば3歳児健診の時にあの子はチェックというようなことを来ていただいてチェックいただいています、親の了解なしで見られますので、園の中ではですね。そのようなところでどう対応していいのか、障害によっても違うのでどう対応していいのかも専門家でないといけないので、先程のコーディネーター研修の中でそれを補っているかたちです。現場ではそういった状況です。大体2歳から3歳の間で親が変だなと思っていても、納得しない親もいますし、納得しなければという親もいますし、というところですよ。</p> |
| (委員C) | <p>よろしいでしょうか。やはり親御さんは正直認めたくないというところがある方もいらっしゃると思うんですね。そうした場合に、うちの子は出来ないのだからというふうに過保護にして、何か障害があれば全部親が道を作ってあげるように抱え込んでしまう親御さんもいれば、出来ないのだからといっても心理療法面などでいろいろなことを体験させていただいたら、こんなことも出来るのだというような変化なども見ていただくことも大事なのかなというふうに思うので、療育というものに力を入れていただければありがたいなと、そんな思いで話をさせていただきました。よろしくお願いいたします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| (会長)  | <p>ほかにございませんか。</p> <p>それでは以上で高崎市子ども・子育て支援事業計画（案）に関するパブリックコメントの実施についての協議を終結いたします。</p> <p>以上で、本日予定していました議事は終了いたしました。審議の円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。それでは進行を司会に戻します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| (事務局) | <p>会長、議事の進行、ありがとうございました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 4. 閉会 | <p>以上を持ちまして本日の会議はすべて終了いたしました。会議を閉会いたします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|       |  |
|-------|--|
| (事務局) |  |
|-------|--|